



フィグ・ヤーパン通信

第21号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.21

発行日 2005年1月1日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

新年明けましておめでとうございます

昨年は、『わずかばかりの知識と知覚そして知恵』（新風舎刊）、『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録（1）』（水瓶座時代出版刊）の書籍を出版することができました。小冊子を除き、年間で複数の書籍を出版できたことは、平成3年にフィグ・ヤーパンを創設して以来初めてでした。このように少しずつ成果を挙げることができたのも、フィグ・ヤーパンの活動が、継続して多くの読者の皆様に支えられているからに他なりません。まずは、これまでご支援いただいた読者の皆様に対し、心よりお礼申し上げます。

昨年出版した書籍の内、『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録（1）』は、フィグ・ヤーパンが翻訳、校正、版下作成、出版に関するすべての工程を独自に行なって自費出版した最初の書籍となりました。このため、フィグ・ヤーパン内に、「水瓶座時代出版」を設立し、出版社として登録しました。また、「水瓶座時代出版」の名称を保護するため、商標登録も行っています。今年度も、フィグ・ヤーパンから自費出版される書籍については、「水瓶座時代出版」の名称が付与されます。

さて今年度は、写真等の豊富な資料が掲載されるようになり、全面的に改訂された『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録』シリーズを継続して翻訳出版いたします。さらに、一昨年のリッカウアー夫妻による講演会でも紹介した瞑想の入門書となる『瞑想入門（仮題）』を出版する予定です。また、

『アラハト・アテルザータ（仮題）』についても、翻訳をすべて終了し、現在2人目の翻訳者による校閲作業に入っています。

本誌『フィグ・ヤーパン通信』や、ホームページも、より興味深く充実した内容となるように努力いたします。昨年に全面改訂したホームページは、毎月アクセス件数が増加しており、私共の活動が多くの方に注目されるようになってきていることがわかります。一方で、イラク戦争を始めとした時事的な内容について記したFIGU公報や、FIGU特別公報についても、可能な限り発行したい所存です。

発行する書籍や冊子類等が増加するに伴い、事務作業も増加しつつあります。フィグ・ヤーパンは創設以来、およそ10名のメンバーによって、自由意志による無報酬の作業によって運営されてきました。しかし、メンバー各自の生活のための賃金労働と、事務所機能を維持するために必要な作業を両立するために、より一層の工夫が求められる段階に入りつつあります。困難の伴う作業ではありますが、フィグ・ヤーパンメンバー一同、今年も着実にミッションを進めて参ります。本年も昨年同様に、ご支援ご協力をいただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。本年が読者の皆様にとって実り多い年となりますように。

平成17年元旦
フィグ・ヤーパン一同

新刊 (好評発売中)

プレアデス/プレヤール人とのコンタクト記録(1)



装丁：A5判
ソフトカバー
頁数：272ページ
重量：375グラム
定価：2000円(税込)

本書は、ビリー・マイヤーのコンタクト記録を豊富な写真や書簡類等と共に集大成した最新版の邦訳書です。原書はこれまでに5巻が出版されています。翻訳版の本書は、原書第1巻の始めの100ページを全訳し、収録したものです。今日まで続くビリー・マイヤーのコンタクトがどのような経緯で始まったか、写真やスケッチ、当時の新聞記事などと共に、詳しく解説されています。

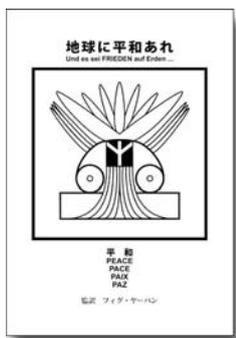
目次

導 入

すべてはどのように始まったか
私の初めてのUFO目撃とそれに続く初期の会見
スファートの説明 (1945年2月3日)
セミナーゼとの最初の会見に関する導入説明

- 第1回会見 (1975年1月28日)
- 第2回会見 (1975年2月3日)
- 第3回会見 (1975年2月8日)
- 第4回会見 (1975年2月15日)
- 第5回会見 (1975年2月16日)
- 第6回会見 (1975年2月23日)
- 第7回会見 (1975年2月25日)
- 第8回会見 (1975年3月18日)
- 第9回会見 (1975年3月21日)

新刊 地球に平和あれ



ドイツ語原文対訳
A5判
30ページ

本書には、ビリーによって、地球に平和をもたらすために必要な事柄が述べられています。愛と平和、自由と調和を創り出すためには、英知と理性による思考と感情に従う行動が大切であることを説いています。表紙には、古代から伝えられてきた、平和を示すシンボルが掲載されています。

A5判ドイツ語原文対訳でご覧いただける小冊子として発行しています。

全人類のために愛と平和、自由と調和を望み、権力欲や、独善と不遜や、誇大妄想に陥ることのない真の人間は、人間と世界を意のままにするために憎しみや復讐欲や殺傷武器を用いることは決してない。そうした姿勢や技術や道具などは、常に反対に転じる傾向があるという理由だけからも、そのようなことはしない。実際、血に飢えて暴れまくる戦士からなる激越な軍隊が通過し、狂人の名とその命令により殺害、破壊、壊滅をほしいままにしたところでは、いばらが芽生え、繁茂してすべてを変え破壊してしまうのである。しかも、これは自称愛と調和、平和と自由を創出するという大義のもとで行われるのだ。だが実のところこれらすべては、戦争とテロを扇動し、言語に絶する悲惨と、激しい困窮と、非常な苦痛を地球人と世界にもたらす者の権力欲、臆病な不安と怯懦、そして憎しみと復讐欲を取り繕うための隠れみののにすぎない。……

Q&A 質問と回答

□読者の質問

この世界ですべての個人にとって正義が存在するようになるには、どうしたらよいでしょうか。

エーファ・ビエリ（スイス）

□ビリーの回答

地球人は残念ながらまだ進化の途上にあります。もちろん例外もあるのですが、たいていは誰もがほんの目先のことしか考えず、自分の繁栄だけに気を遣っているのです。そうである限り、すべての個人に正義が生じるということは当分あり得ないでしょう。というのも正義は、それが真価を発揮するために考慮されねばならない多くの要因の上に成り立っているからです。このような要因の基本的な価値は愛と誠実、徳と調和であって、これに加えて妬み、憎しみ、復讐、悪意、そして報復欲が存在しないことが非常に重要になります。それだけでなく、正義は同胞に対して率直かつ協調的で礼儀正しく振る舞うことを人間に求めもします。ここで必要なのは、社会的に正しい行動を取ること、そして人間性と真の人間存在が与えられていること、という時を超えて妥当する尺度なのです。正義は価値であるとともに、個々の人間のみならず、あらゆる人間集団、あらゆる民族が全体で要求できる権利でもあります。それゆえ人間自身の間で正義が支配しなければならぬだけでなく、立法もあらゆる点で正義を満たさなければならず、また本来そうすべきなのです。なぜかと言うと、遺憾なことにかなり多くの立法や裁判官にとって、正義とは勝手に伸ばしたり縮めたり

しているものに解釈できるゴム条項のようなものすぎないものになってしまっているからです。ここで頻繁にまかり通っている原理は、「大物の悪党は見逃し、ちんぴらは縛り首」というものです。そのため正義に基づく判決によってしばしばより多くの不正義が生まれ、その結果、罪のない人間が苦しむ一方で、悪党どもは法律や裁判官に守られ喜々として不正を働き続けることができるのです。こうした立法や裁判官によりごく普通に行われていることは、残念なことに非常に多くの人間のライフスタイルともなっています。彼らは正義に微塵の価値も認めず、自分自身の利益だけを最優先するのです。だからこうした状況のもとでは、すべての個人に正義がもたらされるということはありませんし、それは今後もずっと変わらないでしょう。

すべての個人に正義がもたらされるべきであるとするならば、人間は何よりも真の人間であること、真の愛、誠実、平和、自由、そして調和に真価を発揮させることを学ばなければなりません。そして自分の中に潜んでいる憎しみ、復讐欲や報復欲、人種差別と利己心、支配欲、嫉妬および独断をすべて消し去ることが必要です。人間はまた誤まって扱われた法律に基づく判決によって生み出される不正を含むあらゆる不正、戦争と死刑、あらゆる非人間性、不正義、迷妄、欲望、所有欲、犯罪、嘘、欺瞞、誹謗、そして尊厳の欠如を捨てさらねばなりません。なぜならばこうしたことを全く行わずに、この他の多くの克服すべき無価値の性質や邪悪や墮落を携えたままでは、この世界ですべての個人にとって正義が存在するというには決して至らないだろうからです。

（出典：FIGU公報第49号）

Wenn man in sich selbst keine Liebe, Harmonie und Freiheit und keine Freude sowie keine Freiheit hat, können all diese hohen Werte auch nicht mit anderen Menschen geteilt werden.

愛や調和や自由や喜びや平和を自らの内に備えていない者は、これらの価値高きものを他の人間と分かち合うことができない。

（出典：わずかばかりの知識と知覚そして知恵）

ビリー・マイヤーへのインタビュー — 霊の教えについて —

まもなく西暦2000年になります。いろいろな教派の多くの世界滅亡論者が主張しているように世界の滅亡は近いのですか。

これは純粹にナンセンスです。神の判断で世界は1000年に終わりになったりしませんでしたし、また、2000年にも3000年にも、その後にもそんなことは起こりません。世界没落預言者は昔から存在したし、不安に駆られてそうしたいかさま師を信じる信奉者もいました。その中にはキリスト教会も含まれており、その聖書は世界の没落や最後の審判等を掲げて脅しています。したがって多くのキリスト教派とその親玉がいつも、世界の没落が迫っていると言って脅すのも不思議ではありません。そして何らかの間違いやその信者が予言する世界の没落の時期として、特に好まれるのが千年紀または世紀の終わり、つまり年代がある世紀または千年紀から次の世紀または千年紀に変わる時なのです。

しかし実際に地球がそのような時点で、おそらくは宇宙からの巨大な隕石や彗星によって没落したり、破壊されたりするようなことがあれば、それは宇宙の摂理以外のなにものでもなく、架空の創造主・神やその息子と称するイエス・キリストの復讐や裁きとはおよそ関係ありません。たとえまた人間が、軍事や科学の領域で狂気に駆られ、破壊欲にまかせて地球を没落させたり破壊したりしたとしても、それは神による世界の没落とは全く異なるものでしょう。

このインタビューを読む多くの人々は、すべてが自分の言う通りであるという確信を、あなたがどこから得たのか不思議に思うでしょう。あなたは多くのことは宗教によるのと同じく信仰の臆断であると言っていますね。それらの人々に対して何と言いますか。

誰も私が言うことをまじめに、あるいは真実として受け止めたり、そのまま信じたりするように義務づけられることもなければ、勧められることもあり

ません。原理的に誰も何らかの事柄や発言等、私が語り説くことのすべても信じるべきではありません。信じることは従属させ、愚かにするものですから、人間は決して何物も信じてはならないのです。反対に人間は常に批判的であり、あらゆることを極めて正確に熟考し、すべてを正確に考え抜き、探求し、究明し、そうして自分自身の内に、また自分の外に真理を見出さなければなりません。しかしそのために必要なのは悟性と、健全な批判と、完全な思考の自由であり、また偏見や先入観に捕らわれない中立的な態度です。こうしたことが全部揃って初めて人間は、すべての事物を究明し、実際の事実に基づいて本当の真理を見出し認識することができるのです。しかしこのような事実の究明による真理の認識は、実際に存在するあらゆる事実や局面を探求し、そこから有効な結果が生まれるのであって、信仰の臆断とはいささかも関係ありません。真理の事実の中に信仰の居場所はなく、ただ有効な現実があるだけです。そしてこの有効な現実こそが真理が本当に正しいこと、そして真理は創造的自然において、そのすべての法則と掟において、開かれた感性と悟性ですべてを観察し、吟味し、探求し、究明するあらゆる人間によって認識され得るという確信を私に与えるのです。

もちろん自分たちの原理や想像に基づいてこの真理を否定する知ったかぶり屋はいます。これらの人間は人々にとって害でしかありません。なぜならば、彼らは真理を、そしてまた現実の人生をも素通りするからです。宗教や厳格な教派上の理由からこの真理を否定する人々もいますが、理性的に考える人間なら誰も、それらの人々もまた現実の人生を素通りしていることを知っています。

あなたはどのようにしてあなたの偉大な知識に到達したのですか。

そのために私はすでに小さい子供の時から学び始め、そして常に学び続けなければなりません。まだ学校にも行かないうちから、スファートという

名の地球外生命体の授業を受け、非常に多くの事柄や事実を教えられ、また創造的自然の法則と掟についても学びました。スファートはイシュヴィシュ、つまり「英知の王」の称号を持った男でしたが、地球の概念では神と呼ばれています。彼は私に通常人間から人間にするように教える一方で、技術的な催眠装置を使って恐ろしいほど多種多様な事柄やデータ、その他の知識を私に伝えたのです。こうして私は非常に多くの事柄を知り、学びましたが、そのためまもなく私は孤独になり、話し相手に大人だけを求めるようになったのです。たとえば学校の教師や親愛な牧師です。

学校を卒業する前にも、スファートはいろいろな機会に私をインドのダージリン付近や、ヒマラヤ山脈に連れて行きました。そこには仏教の僧侶がいて、やはり私にいろいろなことを教えてくれました。後に私がインドのいろいろな所に住んだ時も、他の僧侶たちが同じように教えてくれました。そのほかに私は常に自分の努力によっても学び、後にはアスケットという名前の地球外生命体からも学びました。アスケットはダル宇宙と呼ばれる私たちの双子宇宙からこの地球にやってきました。

私たちが冒頭で話したことにつなげて言いますと、私たちの人生の意味はいったい何ですか。

人生の意味は進化、すなわち進歩と発達、不断の発展です。進化の意味は、愛と調和、能力、知識と英知を包含した最高に可能な発展を達成することです。

進化は人間を高い知識と英知の水準にもたらし、人間が創造に適った人生を送ったりできるようにするだけでなく、創造自体が進化するのを助ける働きもします。つまり人間や事実上すべての生物が進化を必要としているように、このことは創造にも、したがって宇宙意識それ自体にも等しく当てはまるのです。創造も相対的に完全であるにすぎず、それゆえより高い存在形態へと昇ることができるために、進化を必要としているのです。そこに至る道は人間です。人間は数十億年かけて純粹靈形態へと進化し、この形態においてさらに高い存在形態、すなわちペターレ水準に昇ります。そこから次に創造、

すなわち宇宙意識への移行が始まり、それによって合一、すなわち一体化が行われるのです。このようにして創造は、最高に可能な完全性にまで育成された、かつての人間の靈形態を取り入れるのです。人間の靈形態はかつて創造の部分として創造から出発し、人間を経由して成長して進化するのです。この一体化により蓄積された知識と英知も創造の中に入ります。創造はそれによってまたほんの少し進化し、ある時間を経て次に高い創造形態になります。それはまた進化を続け、想像もできないほど長い時間を経ていつか最後に絶対的絶対、すなわち万物を包摂した最高の創造形態になります。そしてこれもまた進化を永劫に、すなわち無限の時間にわたって続ける必要があるのです。

宗教が満足できる答えを与えられない人に何か助言がありますか。この人はどうしたらいいですか。

そうした人々や、宗教等に属しておらず、人生の意味等について満足のゆく答えを見出せない人々ができることはただ一つです。それは、何らかの誤まった教えを信仰によって受け入れ、その中で自己を失う代わりに、自分自身の中に真理を探し、実際にも見つけ出して、真理に即した決定的で有益な知識を獲得することです。この場合の原理は、「求めるものは見出す」です。しかしここで忘れてはならないのは、正しいもの、良いものを見出すことができるのは、本当にそれらを求め、厳しい努力をする人だけだということです。なぜならば、本当の真理は、宗教や教派が真理として見せたり売ったりしているすべての誤謬ごびゅうのように簡単には見出せないからです。それらの誤謬は本当は誤まった教えに過ぎず、人間を従属させ、人間に権力を振るい、そして人間を搾取することを目論んで作り出されたものです。残念なことに、多くの人々はこの誤まった方向、すなわち宗教に向けた道を進んでいます。宗教は昔から「民衆の阿片」として知られていますが、それは宗教が人間の頭を朦朧もうろうとさせるからです。それによって人間はもはや現実と真理が見えなくなり、あらゆる自己責任を失います。しかし自己責任は、創造的自然に適い、調和の取れた善く正しい人生を送り得るために大いに必要なのです。

現代において個々の人間は無力でしょうか。戦争や地球上の悲惨な状況を見れば、多くの人が自分に何ができるか疑わしくなるでしょう。

個々の人間は非常に多くのことをすることができます。何よりも最初に自分自身のためにすることができます。どんな人間にとっても自分が一番身近であり、そのため何よりもまず自分自身を育て、進化させること、そしてもちろん生活を維持することに心を砕かなければなりません。これはまた、創造的・自然に適うような仕方で、また各人が彼の一切の思考、願望、感覚、感情、感性および行為に対して、いついかなる場合も完全に自分で責任を負うような形で行われなければなりません。つまり各人は自分自身と取り組んで、本当に人間にならなければならないのです。なぜならば、すべてのことは個々の人間において始まり、全人類は個々の人間から成り立っているからです。個人が善良で、理性的で、責任感があれば、それを隣人に伝え、この隣人はおそらくはより善良で、理性的で、責任感のある人間になると努めるでしょう。それはまた次の隣人へと伝わり、こうして広がっていくのです。

人類の大多数を変え、人類の大多数がより良いものにも変わることができません。それができるのは個々の人間だけです。そして個々の人間は自分の新しい性質、知識、愛、調和、平和、責任意識等を世界に向けて、隣人やそのまた隣人に伝え、こうして最後にはあたかも雪合戦のような状況が生まれます。それゆえ問うべきは、個人に何かできるだろうかとか、個人は無力ではないだろうかではなく、なぜ個人は何もしないのかという

ことです。というのも、あらゆる害悪を取り除き、すべてがより良いものへと変わることは、ことごとく個人において行われるからです。しかしこのような行為で肝心なのは、何よりも人間が人間であることを自覚し、自分自身と取り組んで、自分を真の人間に作り上げることです。しかしそれは真理を発見することによってのみ行うことができます。真理が見出され、本当に真の人間になると、外に向けても多くのことをすることができます。それは人間が勇気を奮い起こして、真理に対して、より良い人生とより良い世界に対して、そして全人類のより良い感性と願望に対して責任を持つことによって可能となります。これにはたとえば人口過剰、女性差別や児童虐待、拷問や死刑、人種差別や外国人差別等に反対する闘いに参加することも含まれます。しかしまた動物保護、自然保護、環境保護、惑星地球の維持等の闘いも含まれます。そして言うまでもなく、可能かつ適切でさえあれば同胞を助けることもこれに含まれます。

大多数の人類には何も期待してはなりません。なぜならば、それらは頑なに無関心で利己的な足取りで生きているからです。それゆえ、より良い心情を抱いて真理に近づけるようになり、そして隣人とそのまた隣人を引き付けるのは、個人にしかできません。それは全人類をより良い方へと変え、生命と世界を維持するために存在する唯一の道なのです。

終わり

(出典：FIGUスイス ホームページ)

※次号より、新しい連載が始まります。どうぞご期待ください。

フィグ・ヤーパンからのお知らせ

□ 第8回全国読者集会在開催されました □

昨年(2019年)の10月24日、午後1時からおよそ3時間にわたって、第8回全国読者集会在開催されました。昨年は、度重なる台風の上陸や、読者集会在直前の新潟中越地震など、自然災害が多く発生したため、集会在の開催が心配されましたが、全国から40名を超える熱心な読者の方々にご参加いただきました。

書籍や小冊子を始めとする新刊書の発行や、インターネットの普及によって、フィグ・ヤーパンの読者数は確実に増加しています。このため、第8回全国読者集会在では、以前にも増して、初めて参加された方が多く見られました。

フィグ・ヤーパンの活動報告では、財務状況、昨年の新刊書とこれから出る本に関する出版報告、フ



ィグ・ヤーパンのホームページ改訂についての説明が行なわれました。さらに、地球の平和をテーマとして、フィグ・ヤーパンのメンバーにより、「平和とは何か」と題した講演と、平和をもたらすための有効な手段としてFIGUが提唱している平和瞑想についての解説が行なわれました。

次に、『わずかばかりの知識と知覚そして知恵』の出版を記念した懇談会が行なわれました。この懇談会では、書籍の題名とは裏腹に、人間として生きるための知恵が満載された本書を題材に、参加された皆さんから意見交換が行なわれ、全国から集った読者間で交流がもたれました。また、懇談会の途中で、札幌、東京、山梨で開催されているスタディー・グループの活動紹介がありました。

こうして、8回目を迎えた全国読者集會も全日程を無事終了し、午後4時に閉会され、全国から参加された読者の皆様がそれぞれの家路に着きました。全国からご参加いただいた読者の皆様、ありがとうございました。

□ これから出る本 □

フィグ・ヤーパンでは、今年も新しい書籍を一冊でも多く世に送り出すため、努力していきます。既に昨年から翻訳に着手している本には、『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録（2）』、『瞑想入門（仮題）』、『アラハト・アテルザータ（仮題）』があります。『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録（2）』は、昨年出版されたコンタクト記録の続編となります。『瞑想入門（仮題）』は、瞑想についての背景と理論や、平和瞑想を始めとする様々な瞑想の手法を体系的に詳しく解説した瞑想入

門書の決定版です。『アラハト・アテルザータ（仮題）』は、ビリー・マイヤー氏が1975年に、ARAHAT ATHERSATA と呼ばれる高次の霊形態からのインパルスを受け取って書き下ろした作品です。

日本で翻訳出版する書籍の順番は、原著者ビリー・マイヤー氏との相談によって決められています。また、それぞれの著作の翻訳作業は、全面的に改訂された最新版を基に行なわれています。最新版では、ビリー・マイヤー氏による大幅な加筆や、FIGUスイスによる厳密な校正が行なわれており、より充実した正確な内容となっています。日本語版の出版は、『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録（2）』は夏頃、『瞑想入門（仮題）』は秋頃、そして『アラハト・アテルザータ（仮題）』は来春を予定しています。この他にも、新規に翻訳を開始する予定の書籍があります。どうぞご期待ください。

□ 書籍の感想をお寄せください □

フィグ・ヤーパンが昨年翻訳出版した、『わずかばかりの知識と知覚そして知恵』（新風舎刊）、『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録（1）』（水瓶座時代出版刊）を始め、『宇宙の深遠よりー地球外知的生命プレアデスとのコンタクト』（徳間書店刊）及び、各種の小冊子を対象とした、読者の皆様からのご感想をお待ちしております。葉書、ファックス、Eメールにて、フィグ・ヤーパン事務所までお寄せください。なお、お寄せいただいた感想文の一部または全文を、フィグ・ヤーパン通信等に掲載させていただくことがありますので、ご了承ください。

□ 郵送料改定のお知らせ □

この度フィグ・ヤーパンでは、合計金額 15,000 円以上あるいは重量 3kg を超える書籍類を一度にお求めいただいた場合、郵送料を無料とすることにいたしました。

出版物の増加によって、書籍の重量から郵送料を算出する計算が複雑になってきました。一方で、日本の郵送手段の多様化によって、しばしば郵便料金の改定が行なわれています。こうしたことから、読者の皆様に書籍をよりお求め易い方法で提供できるよう、郵送料について今後も工夫して行く予定です。

出版物のご案内

新刊!!

■ プレアデス/プレヤール人とのコンタクト記録(1) (水瓶座時代出版刊)

価格 2,000 円 (税込 送料別 375 グラム)

■ わずかばかりの知識と知覚そして知恵(新風舎刊)

価格 3,150 円 (税込 送料別 870 グラム)

■ 宇宙の深遠より 一地球外知的生命 プレアデスとのコンタクト (徳間書店刊)

価格 2,940 円 (税込 送料別 550 グラム)

■ 日本語版 水瓶座時代の声

価格 各 1,000 円 (税込)

83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)

87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)

91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)

■ 第 235 回会見

価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)

■ 日本語版 FIGU 公報

6 号 価格 500 円 (税込 送料別 90 グラム)

30 号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)

38 号 価格 500 円 (税込 送料別 160 グラム)

■ 精神と物質の生命

価格 500 円 (税込 送料別 55 グラム)

■ 預言者エレミヤとエリヤの予告

価格 400 円 (税込 送料別 70 グラム)

■ エノクの預言

価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)

■ 『瞑想入門』の手引き

価格 300 円 (税込 送料別 70 グラム)

■ 地球に平和あれ 新刊!!

価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)

■ 男と女に対する言葉

価格 200 円 (税込 送料別 35 グラム)

■ パートナーシップ

価格 200 円 (税込 送料別 35 グラム)

■ 昨日、今日、明日の心配に関する考察

価格 100 円 (税込 送料別 15 グラム)

■ 生と死は互いに切り離しがたく結びついている

価格 100 円 (税込 送料別 25 グラム)

■ FIGU の原則あるいは人間の原則

価格 300 円 (税込 送料別 40 グラム)

■ プレヤール人が地球人に望むこと

価格 200 円 (税込 送料別 30 グラム)

※その他の書籍につきましては、フィグ・ヤーパンのホームページ等をご覧ください。

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍・ビデオ類のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍・ビデオ代金に以下の郵便料金を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円	500 グラムまで 290 円
100 グラムまで 140 円	1000 グラムまで 340 円
150 グラムまで 180 円	2000 グラムまで 450 円
250 グラムまで 210 円	3000 グラムまで 590 円

※ 15,000 円以上あるいは 3000 グラムを超える場合の郵送料は無料です。

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額：送料を含めた合計金額

払込人：あなたの住所、氏名、電話番号

通信欄：購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤーパン通信 第 21 号 (無料)

発行日 2005 年 1 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 0426 (35) 3741

FAX 0426 (37) 1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail jp@figu.org

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複写複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2005 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.